

Ed.ベンだより



〒 242-0007 大和市中中央林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話 / Fax 046-272-8980 Email: toiawase@edventure.jp URL <http://edventure.jp/>

コンパスが指すところ

ちっぽけなNPOだったとしても、やはりここに触れないわけにはいかない…。

その理由は、教育は未来の社会を想起することなしには成り立たない営みだから。…それが矜持。

大国アメリカのトランプ大統領の一挙手一投足が注目されている。相次ぐ大統領令の乱発(?)に、喝采をしたり、異議を唱えたり…。何が正しいのか、アメリカがどこへ向かうのか、全くわからない。しかし、はっきりしている事実は、いかに多くの問題をアメリカ社会が内包していたのかということが、混乱を通しながらもしっかりと伝わって来ることだ。今まで私たちが、曖昧な中に理解していた多くの考えなければならない問題が、目の前に深刻な問題として浮上してきているといってもよいのかもしれない。しかも、これらの「深刻な問題」は、大国アメリカだけの問題でないことは誰もが気づいている。富の集中と格差、経済活動での恩恵を受けるために移動する多くの移民達。自国から安全を求めて他国へ逃れる難民の群れ。マイノリティへの抑圧と人種差別。世界だって、そして日本だって同じではないのか。「ラストベルト」と「シャッター通り」は、産業や経済構造の変化の中で、忘れられ捨てられていく地域として、共通項で括ることが出来るのではないだろうか。政治、経済、産業が大都市へますます集中することによって、地方は切り捨てられ、置き去りになってしまったのではないだろうか。歴史という事実さえ、何度塗り替えられることになるのだろうか。ヘイトスピーチを、なぜ明らかに「差別だ」と為政者は弾劾しないのだろうか。これらは私たちの「深刻な問題」なのに違いない。

トランプ大統領はまた言う、「自由貿易を否定し、アメリカに雇用を取り戻す」と…。一見、冷戦以降のグローバル資本主義経済の流れを否定し、時間を巻き戻すかのように思われているが、どうだろう?確かにグローバル資本主義経済は世界を飲み込み、無節操な利益収奪競争を繰り返し、「分配」の理念はいつも簡単に踏みにじられた。消費こそが「発展」の原動力となるよう構築された経済システムによって、人間は「生産」「労働」に関わる存在としてよりも、「消費する者」として社会に位置付くようになった。規律と意欲ある消費こそが我々に課せられた責任でさえあるかのようだ。そして、すでにこうしたグローバル資本主義経済の限界が見え始め、「異議を唱え」始める声が大きくなっているのも事実だ。トランプ支持者の声もこのことに相違してはいないだろう。

しかし、ここで気をつけなければならないのは、トランプ大統領も、ポピュリズムと今呼ばれている各国の右傾化した勢力も、人を扇動する目的で「利益」や「もうけ」を語っているだけだということだ。「おまえ達は損している。損をさせているのは移民や他国だ」というわけだ。よく見れば、トランプ系(?)の人々も、非トランプ系(?)の人々も、結局はグローバル資本主義経済の延長線上にいる。そこでは限りない拡大と発展こそが、人間社会の目的であるように語られ続けているのだ。

コンパスが別の針路を指し示すことはないのだろうか。

日本人の年齢中央値46, 9歳! 年間出生人数はすでに100万人を割り、40年後には50万人を

割ると予測されている。ねずみ算式に増える、という言葉があるが、その逆で、－(ねずみ算式)に減っていくのである。超(少子・高齢化)縮小社会は、他国には見られない速さで進行している。そして今のところこれといった有効な手立てが打たれることもなく、一億総活躍という言葉で尻はたたかれても、待機児童や長時間労働、低賃金の問題などに大きな変化の兆しはない。それでも、わたしたちは、国民の全員が活躍して、経済を発展させ、今まで通りの拡大路線を死守しなければならないのだろうか。「ムリーッ！」とか、「かんべんしてよ！」と思わず大きな声で叫びたくなる。

縮小する社会の中でも、多様性に満ち、豊かな生活はできないものなのだろうか。みんなの幸せを担保しつつ、上手に縮小していくことはできないものなのだろうか。発展依存症を脱却し、縮小社会に似合った価値観を編み直して行くことはできないものなのだろうか。

ここに、教育が担わなければならない役割が、改めて整理されてくるような気がするのだが…。コンパスは今、別の針路を指し始めようとしている。

大きな力に振り回されるのではなく、「身の丈に合った幸せ」をそろそろ模索しなければ、日本社会はもたないのではないだろうか。…そんな思いを持って、Ed.ベンチャー教育講演会(2月25日 13:30)の辻信一先生のお話を聞いてみたい。

NPO法人 教育支援グループ Ed.ベンチャー 総会・教育講演会のお知らせ

■今年の総会のポイントは…

① 定款を変更します！

変更点は、昨年度より愛川町ではじめた「貧困を視野に入れた子ども支援」の継続のために、法人の目的に「子ども支援事業」を追加します。

② 「特別支援教育のための学習会」を始めます！

障がいを持つ子どもたちへの支援を位置づけます。

③ 新行動宣言を採択します。

●日時：2月25日(土) 11:30～12:30

●場所：大和市渋谷学習センター 多目的ホール

■続いての教育講演会は…

●講師：辻 信一先生

(文化人類学者 環境活動家 明治学院大学教授)

●演題：シフトダウンへの冒険

－「弱さ」の思想と生き方－

●時間：13:30～(開場 13:00)

●懇親会も予定しています。

NPO法人 教育支援グループ Ed.ベンチャー 教育講演会

人の「弱」を生かすために、
「強」は磨き込まなければならない。
しかし、強弱の境界線は、私たちが自由に設定できる。
「弱」はそのままに受け止める。
そして、強弱と向き合えば、今は、いつか、いつかという危機感に促され、
世界を歩み止まらざるを得ない。経済至上主義の価値観から
私たちに求められる価値観は何か。
私たちが求める「弱さ」とは「強さ」ではない。という問いを問うとき、
どのような「弱」や「強」が、そこに現れてくるのだろうか。
「弱」をキーワードとする思想や生き方に触れながら、
シフトダウンへの冒険に参る。

2017/2/25 SAT
13:30～16:30 (受付13:00)
渋谷学習センター2階多目的ホール
参加費：一般1,000円 学生500円
高校生以下無料

講師 ナマケモノ教授
辻 信一先生
文化人類学者、環境活動家、
明治学院大学国際学部長。

「エコーチェンジャー」(NHK「NHK市民生活番組」)というコソコソな活動に取組んでいる、311をきっかけに「あまのり学校(アースキースクール)」を立ち上げ、その活動を通じて中学生の環境意識を高めるための、著書に「弱さでいいだろ!」(ちくま新書)、「エコーチェンジャー」(平凡社)がある。

主催・問い合わせ
NPO法人教育支援グループ Ed.ベンチャー Ed.venture
TEL: FAX: 046-252-8888 E-mail: info@edventure.jp

後 援
大和市教育委員会

Ed.ベンチャーとは：NPO法人教育支援グループEd.ベンチャーは、市民、退職者、引退者、研究者が集まり立ち上げた社会貢献団体です。市民、子ども、学校、学生、保護者の関与する環境社会貢献活動に専らして「環境」を軸とし、よく似た立場に置かれた子どもたちと関わりあわせて、すべての子ども、学生が学び続けられる環境を創出する活動を行っています。
※活動は11:30よりEd.ベンチャー定例会場で行われます。ご来場の際は必ず事前参加申し込みをお願いします。
※参加費は保護者負担を前提とする予定です。事務局にお電話の上、必要方は無料に調整させていただきます。

「弱さ」の思想と生き方

<理事のつぶやき> 現地時間で1月20日の正午、アメリカのワシントンで大統領就任式が行われた。第45代トランプ大統領の任期の始まりである。アメリカにとって有利かどうか、どこに金を使えば利益が得られるか、ビジネスマンとしての見方で世界を上から見下ろしている。日本も駒の一つでしかないであろう。小学校高学年の子どもたちの目にも、トランプ氏の言動は危険だと映っている。これからの未来を創る子どもたちに、他の国と手を取り合うことの大切さをどう教えていけばいいのだろうか。

(SMI)